

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No. -（事務局用）	タイトル 良好なサードプレイスの立ち上げと運営	自治体名 玉名市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	商店街にサードプレイスの場をつくる		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	玉名市のサードプレイス		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生		3
メンバー数（公開）	3 名		
代表者（公開）	濱田梨央		
メンバー（公開）	江藤ひなた 廣岡実乃里		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

玉名の地域コミュニティの場を作るために、サードプレイスの役割を持ったカフェを設立！

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【ニーズ】

玉名市には15の小学校と6つの中学校、5つの高校、1つの大学がある。また、市内には4つの図書館が設置されている。それらの図書館には、勉強するためのスペースが確保されているだろう。しかしこれだけの学校が集まっていると、今の勉強スペースでは場所の確保ができていないのではないと思われる。よって学生は図書館以外に勉強する場所を必要としていると考えられる。

玉名市は人口減少、高齢化が進む。40年後の高齢化率は約40パーセントと予想されている。よって、これから高齢者の方々が安心して生活を送るためには、地域コミュニティ（地域とのつながり）が必須になると考えられる。しかし、現在の玉名市にはそのような施設が不足しており、サードプレイスとなる交流の場が必要である。

また玉名市には認定保育所が18園、認定こども園が5園ある。しかし、保育士の担い手不足による待機児童が問題となっている。若い人が安心して子育てをする環境を作るために、子育てを相談する場所やイベントが必要だと思われる。よって、サードプレイスに子供連れのママ・パパが集えるようなスペースを求めると考えられる。

【アイデア】

玉名市の亀甲商店街の空き家を多様な人が集まるサードプレイスとし、そこで多様なコミュニティを育む。



【内容】

①カフェ…市民だけではなく、観光客など誰でも利用できるスペースにする。場面に応じて、勉強や仕事など色々な状

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

況で利用できる。市外から来た人に玉名の魅力を知ってもらうために、食材は地元の農家さんなどと連携する。また「ゲストノート」を置き、カフェを訪れた人にメッセージを書いてもらう。

- ② 休憩スペース…シエスタ的な役割を果たす場所で、ハンモックが設置されている。玉名は玉名温泉や金栗四三が有名で、「体」「健康」という面を意識できる空間にする。玉名の自然の音を集めて、編集を行い施設内に流すことで「癒しの空間」にする。
- ③ 学習スペース…主に学生を対象としたスペースで解放された空間で、友達と意見交換しながら効率の良い、学習を行うことができる。
- ④ 貸し会議室…学生や企業、PTA の会議など、予約することで誰もが利用することができる。また、イベントの会場としても使うことができるため、画展や Pop-up などが開催できる。
- ⑤ 育児スペース…平日は託児所としての機能を果たす。予約制で一日の受け入れの人数が決まっている。休日は、子育ての相談会や小さい子ども対象のイベントが開催される。
- ⑥ 屋上庭園…ドッグランや野菜の栽培スペースがある。野菜の栽培は、小学生の自由研究などで使うことができるまた、玉名の野菜を育てることで観光客にも興味を持ってもらう。

【特徴】

- その① 施設内で玉名市の自然の音を流すことによって、「音楽の都」として再発信する。
- その② 音楽のイベントなどを通して、文化の違いを超えた交流や色んな世代のひととの交流ができる。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

〈このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます〉

〈先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます〉

【アイデアを提案する理由】

①**カフェ**： カフェという場は年齢や性別を問わず利用できる。玉名市にはそのように社会との接点を求める人たちが集まる場所が少ない。この場を「コミュニティカフェ」と位置付け、多様なひとが集まる場として運営する必要がある。また「ゲストノート」は、カフェに訪れた人同士を繋いでくれるものになると考える。SNS が発達した時代だからこそ、手書きの文字で人の温かみを感じ、ゲストに「参加感」を持たせる。

②**休憩スペース**： 亀甲商店街に隣接する JR 玉名駅は通勤・通学で利用されているが、電車の時刻表は約 30 分間隔で、バスは 2 時間に一本というように本数が限られている。長い待ち時間に対応する待合所が必要である。その際に、この休憩スペースを待合所として利用できるように整備する。また商店街周辺には 4 つの歯科や病院がある。高齢者の多い玉名市では多くのひとが病院を利用していると考えられるため、その待ち時間や電車、バスの本数を考えると通院者を対象とした待ち合い所と休憩スペースを兼備えたスペースが必要である。

〈現在の JR 玉名駅と駅前〉



出典：申請者撮影

③**学習スペース**： 玉名市には多くの教育機関がある。学生のなかには、図書館にある学習スペースだけではなく、飲食をしながら勉強ができる開放的なスペースを必要とする学生がいる。実際に「広報たまな」令和 2 年 12 月号に掲載されていた「玉名未来づくり研究所」の記事によると、学生は勉強スペースを求めているとがわかる。亀甲商店街は駅や学校が近くにあるため、多くの学生が使用することが見込まれる。

④**貸し会議室**： 貸し会議室としてカフェを利用するには、二つの理由がある。第一に学生が勉強スペースとして利用する部屋が学校の終わる時間まで利用されないためである。昼間の空いた時間を貸し会議室や展示会として貸し出すことで、施設の有効利用が可能になる。

⑤**育児スペース**： 育児スペースでは、子育てをする人々のサポートを行う。現在玉名市は若年人口が減少している。若年層の都市部流出を防ぐためにも、子育てしやすい街づくりに力を入れることで玉名市をアピールする。

⑥**屋上庭園**： 新型コロナの流行によって、3 密を避けた行動をとることが推奨されている。そのため屋上庭園を造れば、カフェを利用する人々の感染リスクを下げ、安心して利用してもらうことができると考える。また東京渋谷の「Miyashita Park」をはじめ、今後屋上を生かした活動に注目が集まっていくと考えられる。また、屋上庭園が屋上緑化の役割を果たすことによって、電気を節約することができる。これは、SDG s に繋がる取り組みになると考えられる。

●なぜ亀甲商店街にサードプレイスを設置するのか

実際に現地でフィールドワークを行い、亀甲商店街を歩いた。亀甲商店街は JR 玉名駅の近くにある商店街である。亀甲商店街は空き店舗が多く、人もほとんど歩いていなかった。近くにある JR 玉名駅にはバス停もあり、交通の便が良い場所といえる。また、JR 玉名駅の周辺には多くの学校があり、多くの生徒が電車を利用して通学してくる。しかし JR 玉名駅の周辺には勉強スペースとなるような場所がなく、唯一の勉強スペースとして提供されている文化センターの図書館までは、JR 玉名駅から徒歩 14 分かかる。JR 玉名駅は学生が多く利用するため、そこに近い亀甲商店街に勉強スペースをつくるべきだと考える。

〈亀甲商店街〉



出典：申請者撮影

〈JR 玉名駅からかかる時間〉（Google Maps により計算）

玉名高校	徒歩 10 分	玉名工業高校	徒歩 36 分
北稜高校	徒歩 17 分	玉名中学校	徒歩 22 分
専修大学玉名高校	徒歩 21 分	九州産業大学	徒歩 35 分、車 6 分
玉名女子高校	徒歩 11 分	玉名文化センター	徒歩 7 分

●なぜ「音楽の都」としての再発信が必要なのか

玉名市のまちを歩いて感じたことは、「音楽の都」としての魅力発信がうまくできていないということだ。音楽イベントとして玉の音コンサートや玉名市民音楽祭といったイベントが開催されているが「音楽の都」としてのイベント数としては少ないと思われる。また「音楽の都」としてのイベントを観光客にも知ってもらい、玉名市外にも発信することで知名度を上げる必要がある。また構築したサードプレイスで音楽のイベントを開催することで地元の人から観光客までそのイベントに気軽に参加してもらうような仕組みをつくる。

●なぜ文化を超えた交流が必要なのか

玉名市では 2011 年の外国人在住者が 314 人であり、2019 年には 914 人となっている。8 年間で 3 倍も増加していることが読み取れる。そのような外国人が玉名市で安心した暮らしをするためには、住民との交流が必要であると考えられる。また、日本で暮らすにあたって言語の不安や文化の違いによる生活の仕方に不安を感じるひとたちもいると考えられる。そのような他国で暮らすにあたっての不安を解消するためには、サードプレイス使った住民と外国人との交流を展開する必要がある。しかし、初めから言葉を使った交流をすることはお互いにとってハードルの高いことであり、交流のし辛さを感じるひとでも少なくはないはずだ。よって、まずは音楽などのイベントを通して他国の人たちとの交流をすべきである。またこのサードプレイスという場を利用してもらうために入りやすい空間づくりをする必要があると考えられる。そのように、市民と外国人との交流を定着することによってサードプレイスの場が多文化の理解を深める場となることを目指す必要がある。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま>

【アイデアを実現する主体】

玉名市役所、亀甲商店街、アイデアに協力してくれる市民など、玉名市の音楽団体、アイデアに興味のある高校生、大学生

【アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）】

・ヒト

- ・ 建築士
- ・ 設計士
- ・ インテリアコーディネーター
- ・ オープニングスタッフ

・モノ

- ・ 室内の家具
- ・ 本、玉名市の広報誌
- ・ ハンモック
- ・ 机、椅子
- ・ ホワイトボード、プロジェクト

・カネ

- ・ 商店街の空き家のリノベーションに必要な資金の調達

【アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス】

2020 年 11 月 玉名市役所の方との事前勉強会
玉名市でのフィールドワーク

【今後の流れ】

実施までの期間 1 年

- ・ 参加者への説明会 1 か月
- ・ 空き家のリノベーションに関わる企画会議 3 か月
- ・ リノベーション期間・サードプレイスの空間についての話し合い 8 か月